

看護実践のための知を身につける領域

対象を全人的にとらえこころとこころを通わせながら、生命力の消耗を最小限にし持てる力が最大限に発揮できるように科学的根拠と豊かな創造性に基づき、対象の個別性に応じて生活に働きかけ安全に看護を実践するための知を学ぶ

1 年次 前期	看護学原論	講師名	金井 一薫	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	1. 「看護とは何か」という問いについて、ナイチンゲール看護思想を基盤に、看護の原理を明らかにする。 2. 看護学を構造的にとらえ、看護の目的論・対象論・方法論を学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	看護の歴史概観 看護理論とは何か 原論と概論の違い	テキスト①の予習をすること
2	ナイチンゲールの生涯とその8つの業績	〃
3	『看護覚え書』を現代の視点で読む（1） 「看護とは何か」「病気とは何か」を明らかにする	前回の内容をまとめておくこと
4	『看護覚え書』を現代の視点で読む（2）	
5	『看護覚え書』を現代の視点で読む（3）	授業内容を整理すること
6	看護学原論の構造とその特徴、看護の目的論と5つのものさし	テキスト②の予習をすること、授業の復習をすること
7	看護の対象論（疾病論）と方法論	授業内容を整理すること
8	評価	レポート課題によって評価する

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	自ら学ぶ姿勢を持ち、予習や復習を行うこと。その際、ノートを上手に活用する工夫をするとよい。
評価方法	レポート 100 点
テキスト	① 金井一薫：新版 ナイチンゲール看護論・入門 現代社 ② 小南吉彦著，金井一薫監修：看護とは何か - 連続講義『看護覚え書』を読む 現代社
参考文献	F.ナイチンゲール著：湯槇ます他訳：看護覚え書 ―看護であること 看護でないこと 現代社
備考	

1 年次 前期	看護学概論	講師名	看護科長	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	看護学の導入科目として、看護全体の概要を把握する。「看護とは何か」という問いについて、看護に含まれる主要概念「人間」「環境」「健康」「看護」の理解を基盤とし、看護学全般の学問的土台を形成する。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	看護学概論の位置づけ／看護の本質	
2	ナイチンゲールの生涯と8つの顔	テキスト「実践を創る 新・看護学原論」を個人で熟読しグループワークに臨み、クラスで発表し共有する
3	ナイチンゲールの生涯と8つの顔	
4	ナイチンゲールの生涯と8つの顔	
5	看護の4つの主要概念「人間」「環境」「健康」「看護」	テキストや図書室の文献を活用し、グループワークでの学習を進める クラスで発表し共有する
6	看護の4つの主要概念「人間」「環境」「健康」「看護」	
7	看護の4つの主要概念「人間」「環境」「健康」「看護」の探究	
8	看護の4つの主要概念「人間」「環境」「健康」「看護」の探究	
9	看護の4つの主要概念「人間」「環境」「健康」「看護」の探究	
10	看護の提供者	
11	看護における倫理	
12	看護の提供のしくみ	
13	医療安全と医療の質保証	
14	広がる看護の活動領域	
15	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	授業内容を理解するためには、主体的な自己学習に取り組んでください。また、グループワークにより学びの共有を大切にします。
評価方法	筆記試験 100 点
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学 [1] 看護学概論 医学書院 金井一薫：実践を創る 新・看護学原論 現代社 F.ナイチンゲール著：湯楨ます他訳：看護覚え書 ―看護であること 看護でないこと 現代社
参考文献	随時提示
備考	

1 年次 前期	形態機能学 I	講師名	関口 雅樹	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	人間が持つ命のしくみを支える機能を明らかにし、日常生活行動の視点から、からだの成り立ちと生命現象について学び、看護を実践するための基礎とする。「恒常性を維持する物質の流通機構」「恒常性維持のための調節機構」のメカニズムを学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	恒常性を維持するための物質の流通機構① 流通の媒体...血液	授業時間 90 分のうち 45 分講義、45 分グループ学習を行います テキストの該当箇所を熟読し、授業後は、各自の復習ノートで整理する。 小テストの振り返りをしておく。 1 ～ 14 回目までの講義で、中間試験があります。
2	恒常性を維持するための物質の流通機構② 流通路...血管・リンパ管	
3	恒常性を維持するための物質の流通機構③ 流通路...肺循環と体循環	
4	恒常性を維持するための物質の流通機構④ 流通の原動力...循環器系の構成・心臓の機能構造	
5	恒常性を維持するための物質の流通機構⑤ 流通の原動力...血圧・血圧の調整	
6	恒常性を維持するための物質の流通機構⑥	
7	恒常性維持のための調整機構 神経調節①...神経系の構造と機能	
8	恒常性維持のための調整機構 神経調節②...脊髄神経と脳神経による情報伝達	
9	恒常性維持のための調整機構 神経調節③...脳の高次機能	
10	恒常性維持のための調整機構 神経調節④...自律神経による情報伝達	
11	恒常性維持のための調整機構 神経調節⑤	
12	恒常性維持のための調整機構 液性調節①...ホルモンの作用機序・分泌の調整	
13	恒常性維持のための調整機構 液性調節②...恒常性維持のためのホルモンの働き	
14	恒常性維持のための調整機構 液性調節③...恒常性維持のためのホルモンの働き	
15	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	各回、必ず授業の前にテキストの該当箇所を熟読しておくこと。授業後は知識の整理（独自ノート作成等）をしておくこと。
評価方法	筆記試験 ＊中間試験と本試験あり （詳細は授業時に説明）
テキスト	講義時配布オリジナルテキスト 系統看護学講座 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院
参考文献	看護学生のための解剖生理学ドリル（照林社） カラースケッチ解剖学（廣川）
備考	

1 年次 全期	形態機能学Ⅱ	講師名	関口 雅樹	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	人間が持つ命のしくみを支える機能を明らかにし、日常生活行動の視点から、からだの成り立ちと生命現象について学び、看護を実践するための基礎とする。 「生体の防御機構」のメカニズムおよび、「動く」「息をする」「話す・聞く」という日常生活行動に関する体のしくみを学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	生体の防御機構① 非特異的防御機構：自然免疫機構	授業時間 90 分のうち 45 分講義、45 分グループ学習を行います テキストの該当箇所を熟読し、授業後は、各自の復習ノートで整理する。 小テストの振り返りをしておく。 1 ～ 14 回目までの講義で、中間試験があります。
2	生体の防御機構① 特異的生体防御機構：獲得性免疫機構 生体防御の関連臓器	
3	日常生活行動 動く① 姿勢、神経から筋への指令と筋の収縮	
4	日常生活行動 動く② 反射・随意運動	
5	日常生活行動 動く③ 骨格・関節・骨格筋、筋の収縮	
6	日常生活行動 動く④ 骨格・関節・骨格筋、筋の収縮	
7	日常生活行動 動く⑤ 骨格・関節・骨格筋、筋の収縮	
8	日常生活行動 動く⑥ 日常生活での基本的な動き 歩く・つまむ・表情	
9	日常生活行動 息を吸う・吐く① 呼吸器の構造と機能	
10	日常生活行動 息を吸う・吐く② 呼吸器の構造と機能	
11	日常生活行動 息を吸う・吐く③ ガス交換 内呼吸と外呼吸	
12	日常生活行動 息を吸う・吐く④ ガス交換 血液によるガス運搬	
13	日常生活行動 息を吸う・吐く⑤ ガス交換 血液によるガス運搬	
14	日常生活行動 話す・聞く① 声を出す、聞く	
15	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	各回、必ず授業の前にテキストの該当箇所を熟読しておくこと。授業後は知識の整理（独自ノート作成等）をしておくこと。
評価方法	筆記試験 ＊中間試験と本試験あり （詳細は授業時に説明）
テキスト	講義時配布オリジナルテキスト 系統看護学講座 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院
参考文献	看護学生のための解剖生理学ドリル（照林社） カラスケッチ解剖学（廣川）
備考	

1 年次 全期	形態機能学Ⅲ	講師名	関口 雅樹	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	人間が持つ命のしくみを支える機能を明らかにし、日常生活行動の視点から、からだの成り立ちと生命現象について学び、看護を実践するための基礎とする。「お風呂に入る」「眠る」「食べる」「トイレに行く」「人間が子孫を残すためのしくみ」という日常生活行動に関する体のしくみを学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	日常生活行動 お風呂に入る① 皮膚と付属物	授業時間 90 分のうち 45 分講義、45 分グループ学習を行います
2	日常生活行動 眠る① サーガディアンリズム、活動周期、眠り	
3	日常生活行動 食べる① 食欲姿勢、食行動	
4	日常生活行動 食べる② 消化と吸収 腹部消化管の構造と機能	
5	日常生活行動 食べる③ 消化と吸収 脾臓、肝臓、胆のうの働き	
6	日常生活行動 食べる④ 消化と吸収 脾臓、肝臓、胆のうの働き	
7	日常生活行動 食べる⑤ 栄養素の消化と吸収	テキストの該当箇所を熟読し、授業後は、各自の復習ノートで整理する。
8	日常生活行動 食べる⑥	
9	日常生活行動 トイレに行く① 排尿 排尿路の構造、尿の貯蔵と排尿	
10	日常生活行動 トイレに行く② 排尿 尿の生成、腎臓の機能と構造	小テストの振り返りをしておく。
11	日常生活行動 トイレに行く③ 排尿 尿生成のメカニズム	
12	日常生活行動 トイレに行く④ 排尿 体液量調整機構 アルデストロン系、抗利尿ホルモン	
13	日常生活行動 トイレに行く⑤	1 ～ 1 4 回目までの講義で、中間試験があります。
14	子どもを生む① 男性生殖器と生殖機能、女性生殖器と生殖機能 性周期とホルモン 出産	
15	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	各回、必ず授業の前にテキストの該当箇所を熟読しておくこと。授業後は知識の整理（独自ノート作成等）をしておくこと。
評価方法	筆記試験 ＊中間試験と本試験あり （詳細は授業時に説明）
テキスト	講義時配布オリジナルテキスト 系統看護学講座 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院
参考文献	看護学生のための解剖生理学ドリル（照林社） カラースケッチ解剖学（廣川）
備考	

1 年次 全期	看護につながる形態機能学	講師名	専任教員	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	「病気を理解すること」「生活行動を援助すること」そのために欠かせないからだの仕組みと働き（形態機能学）を看護の視点でとらえ、「対象の生命力の消耗を最小にするように（生活過程を）整える」ために、どのように形態機能学の知識を活用すればよいのかを学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	からだのしくみと看護	
2	生きている機能 恒常性を維持するための流通機構①②	形態機能学Ⅰ該当学習内容を復習すること
3	・血圧・脈拍・心拍・体温のしくみ 【演習】	
4	生きている機能 恒常性を維持するための流通機構③ ・血圧・脈拍・心拍・体温のしくみ	
5	生きていく機能 日常生活行動 動く①②	形態機能学Ⅱ該当学習内容を復習すること
6	・「動く」を支える骨格のしくみ 【演習】	
7	生きていく機能 日常生活行動 動く③ ・「動く」を支える骨格のしくみ	
8	生きていく機能 日常生活行動 息を吸う・吐く①②	形態機能学Ⅱ該当学習内容を復習すること
9	・「息を吸う・吐く」のしくみ 【演習】	
10	生きていく機能 日常生活行動 息を吸う・吐く③ ・「息を吸う・吐く」のしくみ	
11	生きていく機能 日常生活行動 食べる、トイレに行く①②	形態機能学Ⅲ該当学習内容を復習すること
12	・「食べる」、「トイレに行く」のしくみ ・尿生成のメカニズムと血圧の調整 【演習】	
13	生きていく機能 日常生活行動 食べる、トイレに行く③ ・「食べる」、「トイレに行く」のしくみ ・尿生成のメカニズムと血圧の調整	
14	生きている機能 恒常性維持のための調整機構① ・細胞内液・細胞外液 【演習】	形態機能学Ⅰ該当学習内容を復習すること
15	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	形態機能学の知識をどのように看護に結び付けて活用すればよいのかを講義・演習を通して学習します。形態機能学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの授業内容について予習・復習して授業に臨んで下さい。
評価方法	筆記試験 75 点 提出課題 25 点（5 点×5） 課題は各演習で提示し、終了時に提出
テキスト	池西静江：看護につながる人体の構造と機能 照林社 形態機能学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 使用テキスト
参考文献	高木永子：看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 学研 山内豊明：フィジカルアセスメントガイドブック 目と手と耳でここまでわかる 医学書院 菱沼典子：看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会 その他随時提示
備考	

1 年次 後期	病気のメカニズム	講師名	蜂谷 正博 春山 翔太郎	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	疾病の成り立ちと回復を学習する上で必要な基礎知識として、病態の原因や発生機序・経過、形態と機能および代謝変化の原理を理解する。 そこから、目の前にいる対象に起こっている変化の根拠を考え看護を実践できる力の土台とする。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	病気のメカニズムを学ぶ意義 ・ 病気の分類法、病因 循環障害① ・ 体液の種類、微小循環系、充血	
2	循環障害② ・ うっ血、虚血、止血機構	
3	循環障害③ ・ 血栓症、播種性血管内凝固症候群、塞栓症	
4	循環障害④ ・ 梗塞、側副循環、ショック、浮腫	
5	細胞組織の障害と修復① ・ 変性、代謝障害（蛋白質、脂質、糖質、核酸）	
6	細胞組織の障害と修復② ・ 萎縮、壊死、アポトーシス、肥大と過形成	
7	細胞組織の障害と修復③ ・ 再生、化生、肉芽組織、創傷治癒、異物処理	
8	炎症① ・ 定義、原因、組織変化、炎症メディエーター、炎症細胞	
9	炎症② ・ 経過による分類（急性、慢性）、組織学的分類（滲出性炎、増殖性炎、特異性炎）	
10	免疫とその異常① ・ 免疫の種類、免疫担当細胞、液性免疫、細胞性免疫	
11	免疫とその異常② ・ アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全、移植と免疫	
12	腫瘍① ・ 定義、原因、組織像、発育形式、転移、宿主への影響	
13	腫瘍② ・ 良性腫瘍と悪性腫瘍の相違点、組織学的分類	
14	先天異常・先天異常とは、奇形、染色体異常、遺伝子異常	
15	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	講義はシラバスに従って進めていきますので、特に復習に充分力を入れて下さい。 講義や教科書の内容は丸暗記するのではなく、理解することに努め、理解できない事はそのままにせず、講義中や講義後、またメールで質問して下さい。
評価方法	筆記試験 100 点
テキスト	系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学 医学書院
参考文献	
備考	

2 年次 前期	疾病の成り立ちと回復の促進 I (呼吸器疾患)	講師名	稲瀬 直彦	必修	1 単位 10/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに呼吸器疾患の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。 呼吸器疾患の診断に必要な主な検査法について基礎的知識を習得する。 主な呼吸器疾患について基本的病態を理解し、更にその診断法・治療法などを学び、看護学を学ぶ上での基礎知識とする。				

<疾病の成り立ちと回復の促進 I の組み立てと評価>

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復の促進 I	呼吸器疾患	10	30 点	100 点
	循環器疾患	8	30 点	
	消化器疾患	10	40 点	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	呼吸器疾患総論① ・呼吸器の構造と機能 ・症状と病態生理	授業を受ける前に該当部分 はテキストを読み、関連部分 の学習をして臨むこと
2	呼吸器疾患総論② ・検査 治療 処置	同上
3	呼吸器疾患各論① ・呼吸器感染症 肺結核 肺炎 誤嚥性肺炎 インフルエンザ	同上
4	呼吸器疾患各論② ・呼吸器腫瘍と胸膜・縦隔疾患 肺がん 気胸 胸膜炎 胸膜中皮腫 縦隔腫瘍	同上
5	呼吸器疾患各論③ ・呼吸機能が低下する疾患 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 気管支喘息 間質性肺炎	同上
	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	授業を受ける前に該当部分はテキストを読んでおいて下さい。 特に、呼吸の生理、動脈血ガス、酸塩基平衡は、直接的には分かりにくい部分 ですので、関連する部分の学習をし、授業に臨むようにして下さい。
評価方法	筆記試験 <疾病の成り立ちと回復の促進 I の組み立てと評価>による
テキスト	系統看護学講座 成人看護学 [2] 呼吸器 医学書院
参考文献	授業で提示します。
備考	

2 年次 前期	疾病の成り立ちと回復の促進 I (循環器疾患)	講師名	松原 隆	必修	1 単位 8/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに循環器疾患の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。				

< 疾病の成り立ちと回復の促進 I の組み立てと評価 >

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復の促進 I	呼吸器疾患	10	30 点	100 点
	循環器疾患	8	30 点	
	消化器疾患	10	40 点	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	循環器疾患総論 構造と機能 病理・病態	形態機能学で学習した循環器に関する内容を復習すること
2	循環器疾患の病態・検査・治療① 心電図・不整脈	授業後あるいは授業前に、教科書を予習・復習すること
3	循環器疾患の病態・検査・治療② 動脈硬化・虚血性心疾患・動脈系疾患	同上
4	循環器疾患の病態・検査・治療③ 弁膜疾患・先天性疾患・静脈系疾患	同上
	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	授業後（あるいは前）に教科書を見ながら復習（予習）すること
評価方法	筆記試験 < 疾病の成り立ちと回復の促進 I の組み立てと評価 > による。
テキスト	系統看護学講座 成人看護学 [3] 循環器 医学書院
参考文献	
備考	

2 年次 前期	疾病の成り立ちと回復の促進 I (消化器疾患)	講師名	西山 竜	必修	1 単位 10/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに消化器疾患の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。				

< 疾病の成り立ちと回復の促進 I の組み立てと評価 >

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復の促進 I	呼吸器疾患	10	30 点	100 点
	循環器疾患	8	30 点	
	消化器疾患	10	40 点	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	食道・胃疾患 ・食道がん 胃食道逆流症	形態機能学の消化器に関する部分を学習して臨むこと
2	胃・小腸疾患 胃・十二指腸潰瘍 胃がん	同上
3	大腸疾患 ・潰瘍性大腸炎 クロウン病 大腸がん	同上
4	肝臓疾患 ・肝炎 肝硬変症 肝臓がん	同上
5	胆道・膵臓疾患 ・胆石症 胆のう炎 胆のうがん 膵炎 膵臓がん	同上
	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	受講にあたっては、形態機能学の消化器に関する部分の学習をして臨むこと。
評価方法	筆記試験 < 疾病の成り立ちと回復の促進 I の組み立てと評価 > による
テキスト	系統看護学講座 成人看護学 [5] 消化器 医学書院
参考文献	随時提示
備考	

2 年次 前期	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱ (腎・泌尿器疾患)	講師名	西田 秀範	必修	1 単位 6/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに、腎・泌尿器疾患の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。 腎臓・泌尿器の構造と機能、腎・泌尿器疾患の症状と病態生理、腎・泌尿器疾患の検査と治療・処置を理解する。				

< 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱの組み立てと評価 >

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱ	腎・泌尿器疾患	腎臓疾患 6 時間	30 点	100 点
		泌尿器疾患 4 時間	10 点	
	内分泌・代謝疾患	8 時間	30 点	
	膠原病・アレルギー疾患	4 時間	10 点	
	血液・造血器疾患	6 時間	20 点	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	腎臓の構造と機能	形態機能学で学習した腎・泌尿器に関する内容を復習すること
2	腎疾患の症状と病態生理 腎疾患の検査と治療・処置	授業後あるいは授業前に、教科書を予習・復習すること
3	各種腎疾患の理解	授業後あるいは授業前に、教科書を予習・復習すること
	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	受講にあたっては形態機能学の腎・泌尿器に関する学習をして授業に臨むこと。しっかり復習して下さい。分からないことは質問して下さい。
評価方法	筆記試験 < 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱの組み立てと評価 > による
テキスト	系統看護学講座 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 医学書院
参考文献	
備考	

2 年次 前期	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱ (腎・泌尿器疾患)	講師名	杉浦 崇浩	必修	1 単位 4/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに、腎・泌尿器疾患の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。				

< 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱの組み立てと評価 >

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ち と回復の促進Ⅱ	腎・泌尿器疾患	腎臓疾患 6 時間	30 点	100 点
		泌尿器疾患 4 時間	10 点	
	内分泌・代謝疾患	8 時間	30 点	
	膠原病・アレルギー疾患	4 時間	10 点	
	血液・造血器疾患	6 時間	20 点	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	泌尿器疾患の病態整理と症状・検査・治療・処置①	形態機能学、病気のメカニズムで学習した関連する内容を復習すること
2	泌尿器疾患の病態整理と症状・検査・治療・処置②	授業後あるいは授業前に、教科書を予習・復習すること
	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	授業後（あるいは前）に教科書を見ながら復習（予習）することが望ましい。
評価方法	筆記試験 < 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱの組み立てと評価 > による
テキスト	系統看護学講座 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 医学書院
参考文献	
備考	

2 年次 前期	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱ (内分泌・代謝疾患)	講師名	内田 諭	必修	1 単位 8/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに、内分泌・代謝疾患の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。 各種内分泌腺臓器の生理、内分泌疾患の病態生理・症状・検査・治療について理解する。				

< 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱの組み立てと評価 >

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱ	腎・泌尿器疾患	腎臓疾患 6 時間	30 点	100 点
		泌尿器疾患 4 時間	10 点	
	内分泌・代謝疾患	8 時間	30 点	
	膠原病・アレルギー疾患	4 時間	10 点	
	血液・造血器疾患	6 時間	20 点	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	糖尿病の成因・合併症	
2	糖尿病の治療 メタボリックシンドローム	
3	内分泌総論 ・生命の基本条件 生命を構成する要素 情報伝達 Negative feedback ・機能性腫瘍 原発性と持続性 負荷試験 ・視床下部一下垂体系 解剖学的特長（下垂体門脈 神経性下垂体）下垂体疾患 ・下垂体の内分泌疾患	
4	甲状腺・副甲状腺・副腎・脾臓の内分泌疾患	
	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	受講にあたっては、形態機能学の内分泌・代謝に関する学習をして授業に臨むこと。
評価方法	筆記試験 < 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱの組み立てと評価 > による
テキスト	系統看護学講座 成人看護学 [6] 内分泌・代謝 医学書院
参考文献	
備考	

2 年次 前期	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱ (膠原病・アレルギー疾患)	講師名	濱名 俊也	必修	1 単位 4/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに、膠原病・アレルギー疾患の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。 免疫とは何か・アレルギー反応の型と各種疾患の関係や各種膠原病の病態生理・症状・検査・治療について理解する。				

＜疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱの組み立てと評価＞

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱ	腎・泌尿器疾患	腎臓疾患 6 時間	30 点	100 点
		泌尿器疾患 4 時間	10 点	
	内分泌・代謝疾患	8 時間	30 点	
	膠原病・アレルギー疾患	4 時間	10 点	
	血液・造血器疾患	6 時間	20 点	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	免疫の歴史 ・免疫とは何か ・液性免疫 細胞性免疫 ・抗体 補体 ・アレルギー反応の 4 型と各種疾患の関係 ・膠原病の定義 ・SLE (全身性エリトマトーデス)	
2	SSc (強皮症) DM (皮膚筋炎) PM (多発性筋炎) 関節リウマチ Wegener 肉芽腫瘍 Sjogren 症候群 ステロイド剤の副作用	
	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	受講にあたっては、病気のメカニズムの免疫とその異常に関連する部分の学習をして授業に臨むこと。
評価方法	筆記試験 ＜疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱの組み立てと評価＞による
テキスト	系統看護学講座 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症 医学書院
参考文献	
備考	

2 年次 前期	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱ (血液・造血器疾患)	講師名	田中 正嗣	必修	1 単位 6/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに、血液・造血器疾患の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。 造血のしくみと血液成分の機能が理解できる。 血液疾患についての病態、症候、診断、治療が理解できる。				

＜疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱの組み立てと評価＞

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱ	腎・泌尿器疾患	腎臓疾患 6 時間	30 点	100 点
		泌尿器疾患 4 時間	10 点	
	内分泌・代謝疾患	8 時間	30 点	
	膠原病・アレルギー疾患	4 時間	10 点	
	血液・造血器疾患	6 時間	20 点	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	血液・造血器疾患総論 (1) 造血・血液の働き 幹細胞・血液成分・機能・造血のしくみ (2) 血液疾患の症候学 貧血・発熱・感染・出血・臓器腫大など	形態機能学で学習した関連内容を復習すること
2	血液・造血器疾患の検査・治療 (1) 診断に必要な検査 血液検査・骨髄検査・画像検査 (2) 治療 化学療法・支持療法・輸血療法・造血幹細胞移植	授業後あるいは授業前に、教科書を予習・復習すること
3	血液・造血器疾患の検査・治療 (1) 貧血性疾患 原因別に貧血分類ができる 鉄欠乏性貧血・再生不良性貧血・巨赤芽球性貧血・溶血性貧血など (2) 腫瘍性疾患 各疾患の特徴を理解できる 白血病、悪性リンパ腫・多発性骨髄腫など (3) 出血性疾患 出血をきたす疾患が列举できる 血小板異常・凝固因子異常	授業後あるいは授業前に、教科書を予習・復習すること
	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	形態機能学で学習した血液・造血器に関連する部分の学習をして授業に臨むこと。
評価方法	筆記試験 ＜疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱの組み立てと評価＞による
テキスト	系統看護学講座 成人看護学 [4] 血液・造血器 医学書院
参考文献	血液疾患のとらえかた 池田康夫 分光堂
備考	

2 年次 前期	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ (外科学)	講師名	米山 公康	必修	1 単位 8/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに、外科学の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。				

< 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲの組み立てと評価 >

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ	外科学	8	20	100 点
	麻酔学	2	10	
	リハビリテーション医療	6	20	
	画像診断と放射線治療	2	10	
	頭頸部・耳鼻咽喉疾患	2	10	
	眼疾患	2	10	
	皮膚疾患	2	10	
	性・生殖器疾患 女性	4	10	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	外科学総論Ⅰ (1) 外科とは (2) 外科的病態 ①腫瘍 ②炎症 ③創傷治療 ④ショック ⑤イレウス	形態機能学で学習した関連内容を復習すること
2	外科学総論Ⅱ (1) 外科的治療 ①重大な発明 ②術後の生体反応	授業後あるいは授業前に、教科書を予習・復習すること
3	外科学各論 (1) 模擬症例で勉強	同上
4	外科学各論Ⅱ (1) 模擬症例で勉強	同上
	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	受講にあたっては、形態機能学、病気のメカニズムで学習した関連する部分の学習をして授業に臨むこと。
評価方法	筆記試験 < 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲの組み立てと評価 > による
テキスト	系統看護学講座 臨床外科看護総論 医学書院
参考文献	
備考	

2 年次 前期	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ (麻酔学)	講師名	渡部 浩栄	必修	1 単位 2/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに、麻酔学の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。				

< 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲの組み立てと評価 >

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ	外科学	8	20	100 点
	麻酔学	2	10	
	リハビリテーション医療	6	20	
	画像診断と放射線治療	2	10	
	頭頸部・耳鼻咽喉疾患	2	10	
	眼疾患	2	10	
	皮膚疾患	2	10	
	性・生殖器疾患 女性	4	10	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	(1) 全身麻酔 麻酔とは 分類 前投薬と術前診療 全身麻酔の実際 合併症 (2) 局所麻酔とペインクリニック 局所麻酔薬の種類と特性 局所麻酔の実際 合併症 ペインクリニック	受講にあたっては、形態機能学、病気のメカニズムで学習した関連する部分の学習をして授業に臨むこと
	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	受講にあたっては、形態機能学、病気のメカニズムで学習した関連する部分の学習をして授業に臨むこと。
評価方法	筆記試験 < 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲの組み立てと評価 > による
テキスト	プリントを配布します。
参考文献	
備考	

2 年次 前期	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ (リハビリテーション医療)	講師名	横山 修	必修	1 単位 6/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに、リハビリテーション医療の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。 高齢化社会を迎えてリハビリテーションの必要性はますます高まり、リハビリテーションにおける看護師の役割は重要である。リハビリテーション医療と医学の基礎的な理解を目指す。				

＜疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲの組み立てと評価＞

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ	外科学	8	20	100 点
	麻酔学	2	10	
	リハビリテーション医療	6	20	
	画像診断と放射線治療	2	10	
	頭頸部・耳鼻咽喉疾患	2	10	
	眼疾患	2	10	
	皮膚疾患	2	10	
	性・生殖器疾患 女性	4	10	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	総論 (1) 国際障害分類から国際機能分類へ (2) リハビリテーションはチーム医療 (3) リハビリテーションで用いる評価指標 バースル指標・長谷川式記名力検査・ブルンストームの麻痺の回復ステージ・MMT (4) 現在の医療保険制度とリハビリテーション医療の流れ	形態機能学で学習した関連内容を復習すること
2	各論 (1) 脳卒中のリハビリテーション (合併症含めて)	授業後あるいは授業前に、教科書を予習・復習すること
3	各論 (1) 脊髄損傷のリハビリテーション (合併症含めて) (2) その他の神経疾患のリハビリテーション (パーキンソン病など)	同上
	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	受講にあたっては、形態機能学で学習した関連する部分の学習をして授業に臨むこと。
評価方法	筆記試験 ＜疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲの組み立てと評価＞による
テキスト	系統看護学講座 リハビリテーション看護 医学書院
参考文献	脊髄損傷の看護セルフケアへの援助 医学書院
備考	

2 年次 前期	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ (画像診断と放射線治療)	講師名	屋代 英樹	必修	1 単位 2/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに、画像診断・放射線治療の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。				

< 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲの組み立てと評価 >

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ	外科学	8	20	100 点
	麻酔学	2	10	
	リハビリテーション医療	6	20	
	画像診断と放射線治療	2	10	
	頭頸部・耳鼻咽喉疾患	2	10	
	眼疾患	2	10	
	皮膚疾患	2	10	
	性・生殖器疾患	4	10	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	画像診断・放射治療の基礎知識 (1) 画像診断 単純撮影 造影検査 超音波診断 MRI 核医学 (2) 放射線治療・放射線被ばく	病気のメカニズムで学習した関連内容を復習すること
	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	受講にあたっては、病気のメカニズムで学習した関連する部分の学習をして授業に臨むこと。
評価方法	筆記試験 < 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲの組み立てと評価 > による
テキスト	自作テキスト
参考文献	
備考	

2 年次 前期	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ (頭頸部・耳鼻咽喉疾患)	講師名	北尾 恭子	必修	1 単位 2/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに、頭頸部・耳鼻咽喉部の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。 感覚器系疾患について感覚器の機能障害と病態から理解する。				

< 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲの組み立てと評価 >

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ	外科学	8	20	100 点
	麻酔学	2	10	
	リハビリテーション医療	6	20	
	画像診断と放射線治療	2	10	
	頭頸部・耳鼻咽喉疾患	2	10	
	眼疾患	2	10	
	皮膚疾患	2	10	
	性・生殖器疾患 女性	4	10	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	・ 主な耳鼻咽喉疾患の病態と治療の理解 ・ 主な口腔咽頭疾患の病態と治療の理解 咽頭がん 舌がん 嚥下障害 めまい含む ・ 主な鼻疾患の病態と治療の理解 アレルギー性鼻炎 副鼻腔炎 鼻出血 ・ 主な耳疾患の病態と治療の理解 メニエル病 突発性難聴 中耳炎 ・ 嗅覚・味覚・平衡感覚検査	形態機能学、病気のメカニズムで学習した関連内容を復習すること
	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	受講にあたっては、形態機能学、病気のメカニズムで学習した関連する部分の学習をして授業に臨むこと。
評価方法	筆記試験 < 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲの組み立てと評価 > による
テキスト	系統看護学講座 成人看護学 [14] 耳鼻咽喉 医学書院
参考文献	ナースのための耳鼻咽喉科レクチュア 分光堂
備考	

2 年次 前期	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ (眼疾患)	講師名	白石 亮	必修	1 単位 2/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに、眼疾患の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。				

< 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲの組み立てと評価 >

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ	外科学	8	20	100 点
	麻酔学	2	10	
	リハビリテーション医療	6	20	
	画像診断と放射線治療	2	10	
	頭頸部・耳鼻咽喉疾患	2	10	
	眼疾患	2	10	
	皮膚疾患	2	10	
	性・生殖器疾患 女性	4	10	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	眼疾患の病態と治療 (1) 症状・診断 (2) 眼疾患各論 (外傷含む) 白内障 緑内障 結膜炎 網膜剥離など	形態機能学、病気のメカニズムで学習した関連内容を復習すること
	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	受講にあたっては、形態機能学、病気のメカニズムで学習した関連する部分の学習をして授業に臨むこと。
評価方法	筆記試験 < 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲの組み立てと評価 > による
テキスト	系統看護学講座 成人看護学 [13] 眼 医学書院
参考文献	
備考	

2 年次 前期	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ (皮膚疾患)	講師名	栗原 佑一	必修	1 単位 2/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに、皮膚疾患の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。 皮膚・粘膜疾患における患者への理解、看護に必要な基礎的知識を獲得する。				

< 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲの組み立てと評価 >

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ	外科学	8	20	100 点
	麻酔学	2	10	
	リハビリテーション医療	6	20	
	画像診断と放射線治療	2	10	
	耳鼻咽喉疾患	2	10	
	眼疾患	2	10	
	皮膚疾患	2	10	
	性・生殖器疾患 女性	4	10	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	主な皮膚疾患についての病態と治療の理解 以下の疾患についての病態と治療、看護の注意すべき点 (1) 湿疹・皮膚炎群 (2) 熱傷 (3) 皮膚感染症	形態機能学、病気のメカニズムで学習した関連内容を復習して臨むこと
	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	受講にあたっては、皮膚の構造と機能に関する形態機能学の学習事項および病気のメカニズムの学習事項を復習し、授業に臨むこと。
評価方法	筆記試験 < 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲの組み立てと評価 > による
テキスト	系統看護学講座 成人看護学 [12] 皮膚 医学書院
参考文献	
備考	

2 年次 前期	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ (性・生殖器疾患 女性)	講師名	金井 雄二	必修	1 単位 4/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに、性・生殖器疾患、女性の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。				

< 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲの組み立てと評価 >

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ	外科学	8	20	100 点
	麻酔学	2	10	
	リハビリテーション医療	6	20	
	画像診断と放射線治療	2	10	
	頭頸部・耳鼻咽喉疾患	2	10	
	眼疾患	2	10	
	皮膚疾患	2	10	
	性・生殖器疾患 女性	4	10	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	良性腫瘍および内分泌疾患 子宮筋腫 子宮内膜症 無月経	形態機能学、病気のメカニズムで学習した関連内容を復習すること
2	悪性腫瘍 卵巣腫瘍 子宮頸がん 子宮体がん	授業後あるいは授業前に、教科書を予習・復習すること
	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	受講にあたっては、形態機能学、病気のメカニズムで学習した関連する部分の学習をして授業に臨むこと。
評価方法	筆記試験 < 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲの組み立てと評価 > による
テキスト	系統看護学講座 成人看護学 [9] 女性生殖器 医学書院
参考文献	
備考	

2 年次 全期	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅳ (脳神経外科疾患)	講師名	大石 裕美子	必修	1 単位 4/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに、脳神経外科疾患の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。				

< 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅳの組み立てと評価 >

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復 の促進Ⅳ	脳神経外科疾患	4	20	100 点
	脳・神経疾患	6	20	
	運動器疾患	8	30	
	精神疾患	10	30	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	(1) 脳血管疾患 ・脳梗塞の分類 ・脳出血の分類 ・症状、診断、治療	
2	(1) 脳腫瘍 ・脳腫瘍の分類、特異性 ・症状、診断、治療 (2) 頭部外傷 ・病態、分類 ・症状、診断、治療	
	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	授業後あるいは授業前に、教科書を予習・復習すること。
評価方法	筆記試験 < 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅳの組み立てと評価 > による
テキスト	系統看護学講座 成人看護学 [7] 脳・神経 医学書院
参考文献	
備考	

2 年次 全期	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅳ (脳・神経疾患)	講師名	桃尾 隆之	必修	1 単位 6/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに、脳・神経疾患の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。 脳神経系の解剖と神経内科疾患（部位診断と病因診断）について理解する。				

＜疾病の成り立ちと回復の促進Ⅳの組み立てと評価＞

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復の促進Ⅳ	脳神経外科疾患	4	20	100 点
	脳・神経疾患	6	20	
	運動器疾患	8	30	
	精神疾患	10	30	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	1. 脳・神経系の構造と機能 ・中枢神経系と末梢神経系 ・運動機能と感覚機能 2. 症状とその病態生理 ・意識障害、高次機能障害、運動機能障害、感覚機能障害	成人看護学 7 の第 2 章、3 章を通読する事。
2	3. 検査・診断と治療・処置 ・神経学的診察、補助的検査法 4. 疾患の理解① ・脳血管障害、脳の感染症、脊髄疾患	成人看護学 7 の第 4 章、5 章を通読する事。
3	5. 疾患の理解② ・末梢神経障害、筋疾患 ・変性疾患（パーキンソン病、ALS など）、認知症 ・てんかん ・自己免疫疾患	成人看護学 7 の第 5 章を通読する事。
	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	形態機能学の脳神経に関する部分の学習をして授業に臨むこと。
評価方法	筆記試験 ＜疾病の成り立ちと回復の促進Ⅳの組み立てと評価＞による
テキスト	系統看護学講座 成人看護学 [7] 脳・神経 医学書院
参考文献	
備考	

2 年次 全期	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅳ (運動器疾患)	講師名	坂野 裕昭	必修	1 単位 8/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに、運動器疾患の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。				

<疾病の成り立ちと回復の促進Ⅳの組み立てと評価>

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復の促進Ⅳ	脳神経外科疾患	4	20	100 点
	脳・神経疾患	6	20	
	運動器疾患	8	30	
	精神疾患	10	30	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	運動器疾患総論 ・骨、関節、筋肉、神経の解剖、構造などの基礎知識と診療方法について	教科書 P2～86 (第一章～第四章)までを熟読した上で授業に臨む
2	運動器疾患の検査・治療Ⅰ ・整形外科の急性期外傷	教科書 P194～204 (第六章)までを熟読した上で授業に臨む
3	運動器疾患の検査・治療Ⅱ ・整形外科の急性期疾患	教科書 P136～162 (第五章)までを熟読した上で授業に臨む
4	運動器疾患の検査・治療Ⅲ ・整形外科の慢性期疾患	
	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	授業前に指定された教科書の範囲を熟読して授業に臨むこと。
評価方法	筆記試験 <疾病の成り立ちと回復の促進Ⅳの組み立てと評価>による
テキスト	系統看護学講座 成人看護学 [10] 運動器 医学書院
参考文献	
備考	上記の内容をプリント、スライド、プレゼンテーション、人体模型で理解を深める。

2 年次 全期	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅳ (精神疾患)	講師名	飯田 諭宜	必修	1 単位 10/30 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに、精神疾患の病態生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知識とする。				

< 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅳの組み立てと評価 >

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復 の促進Ⅳ	脳神経外科疾患	4	20	100 点
	脳・神経疾患	6	20	
	運動器疾患	8	30	
	精神疾患	10	30	

回数	授業計画	授業準備と復習
1	精神疾患・治療方法の理解① ・統合失調症	
2	精神疾患・治療方法の理解② ・気分障害（躁うつ病）	
3	精神疾患・治療方法の理解③ ・神経症性障害	
4	精神疾患・治療方法の理解④ ・アルコール依存、薬物依存	
5	精神疾患・治療方法の理解⑤ ・パーソナリティ障害、てんかん	
	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の 留意点	授業後あるいは授業前に、教科書を予習・復習すること。
評価方法	筆記試験 < 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅳの組み立てと評価 > による
テキスト	系統看護学講座 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 精神看護学 [2] 精神看護の展開 医学書院
参考文献	随時提示
備考	

2 年次 後期	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅴ	講師名	井合 瑞江	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	病気のメカニズムの知識をもとに、病気・障害を持つ子どもの特徴および病態 生理・検査・診断・治療について総合的に理解を深め、看護を学ぶ上での基礎知 識とする。				

＜疾病の成り立ちと回復の促進Ⅴの組み立てと評価＞

科目	単元	時間数	試験配分	合計
疾病の成り立ちと回復 の促進Ⅴ	病気・障害を持つ子ども	15	100	100 点

回数	授業計画	授業準備と復習
1	胎児・新生児の疾患 ・胎児期の特徴（胎児循環）、先天性心疾患 ・新生児の呼吸障害、低酸素症による中枢神経合併症、染色体異常	
2	先天性代謝異常と内分泌疾患	
3	呼吸器疾患	
4	免疫とアレルギー、感染症	
5	川崎病、腎疾患（ネフローゼ症候群）、消化器疾患	
6	血液腫瘍疾患 ・出血性疾患、血小板の異常、造血器疾患（白血病） 神経疾患その他	
7	小児精神疾患 ・発達障害、神経症性疾患、その他の行動上の障害、児童虐待	
8	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	
評価方法	筆記試験 ＜疾病の成り立ちと回復の促進Ⅴの組み立てと評価＞による
テキスト	系統看護学講座 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論 医学書院
参考文献	随時提示
備考	

2 年次 全期	薬理学	講師名	丸谷 善紀	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	薬物の作用・有害作用と対策、正しい与薬法、薬品の取り扱い方・管理に関する基本的な知識を理解し、薬物療法が安全かつ効果的に行えるようにするための理解を深め、専門分野である看護学を学ぶ上での基礎とする。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	薬理学総論	
2	薬理学の基礎知識 I	
3	薬理学の基礎知識 II	
4	抗感染症薬	
5	抗がん剤	
6	免疫治療薬・抗アレルギー薬・抗炎症薬	
7	末梢神経作用薬	
8	中枢神経作用薬	
9	循環器系作用薬 I	
10	循環器系作用薬 II	
11	呼吸器・消化器・生殖器作用薬	
12	物質代謝作用薬	
13	皮膚科・眼科用薬・救急作用薬	
14	漢方薬・消毒薬・輸液製剤・輸血剤	
15	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第 2 条のとおり
学習上の留意点	看護の臨床業務と関係の深い薬物治療の基本を習得するため、授業で理解できないことはそのままにせず、復習を心がけて下さい。
評価方法	筆記試験 100 点
テキスト	系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進 [3] 薬理学 医学書院
参考文献	看護学生のための自己学習 3 薬理学 金芳堂
備考	